

# 六年ぶり六回目の開催

# 第三十七回国民体育大会冬季大会

一月二十六日～二十九日

第三十七回国民体育大会冬季大会（スケート、アイスホッケー競技）が、一月二十六日から二十九日までの四日間、日光市、宇都宮市を会場に開催されます。

なります。

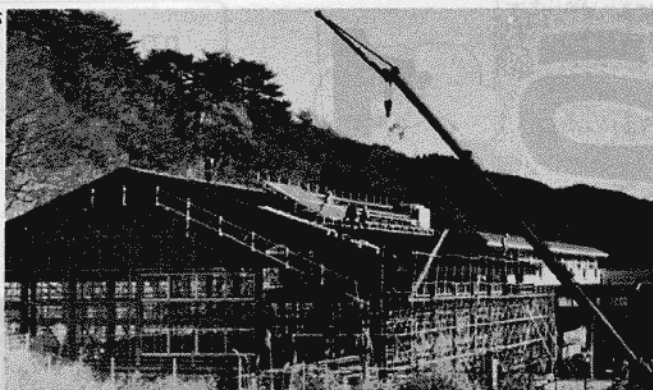
一月二十六日午前十時から、常陸宮ご夫妻をお迎えして、所野運動公園陸上競技場で開会式（荒天のときは日光市総合会館に変更）を行ったあと、午後から競技に入り、スピード、フィギュア、アイスホッケーの三競技に熱戦を繰りひろげます。

れます。

国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、アマチュアリズムとスポーツ精神を高揚すること、国民の健康増進と体力向上を図ること、さらに地域のスポーツ振興と文化の発展に寄与し、国民生活を明るく豊かにするなどのスポーツの祭典です。

今回の冬季大会には、四十四都道府県から約二千五百人の役員・選手が参加します。

市民が丸となって、役員・選手を暖かく迎え、声援を送り、この大会を成功させたいものです。



太陽熱吸収板の取付工事

## 日光小にソーラー設備

### 給食用、シャワー、教材にも利用

新築中の日光小学校は、今春四月の開校に向けて、順調に工事が進んでいます。昨年十二月五日には、県内の小・中学校では数少ない「ソーラーシステム」が、体育館の屋根に取り付けられました。ソーラーシステムは、横一桁、縦二桁の太陽熱吸収のパネル板四十枚を屋根に並べたもので、工費

は千四十六万円。

お湯は、摂氏五十五度になると地上に取り付けてあるタンクに自動的に落ちる仕組みになっています。このお湯は、給食用に使うほか、給食をしない夏休み期間中は学校プールのシャワーに利用することになっており、生きた教材としても活用できます。

## 市民の中に

### 生きた文化財

#### 広報タイトル決まる

本紙十月号で募集した「広報に『こう』の表紙シリーズのタイトルは、六本の応募がありました。応募の中には、文化財、滝、家庭の日、橋があり、この中から広報会議で審査した結果、鈴木ハナエ氏（若杉町）と登坂理平氏（久次良町）から応募のあった「文化財」に決定しました。

この結果、五十七年中の表紙のタイトルは「シリーズ」、市民の中に生きる文化財」と題し、市指定の文化財を中心に、その由来などを紹介していきたいと思えます。そして、このシリーズが文化財愛護の意識高揚の一助になることができれば幸いに思います。

## 表紙シリーズ

### 市民の中に

#### 生きる文化財

## 山久保

### 稲荷神社の杉

（六本）

山久保稲荷神社の杉は、伝承によると、天正年間（一五九〇）結城秀康がこの辺りを領した時に、城の普請材に伐採し、その残りが現在の老杉であると伝えられ、樹齢はいずれも数百年に及んでいる。

千年来の古社のこととて、稲荷社をめぐって、杉森が茂っていたことと思われるが、仮に、日光山昌源僧正時化（文明年間、一四七〇）に植えられたと推定しても、天正頃まで百二十年も経っていた当時、相当な杉の木に成育していたであろう。

寛保元年（一七四一）五ヶ村四十三人の氏子が、杉を寄進した碑が現存し、その植栽に相当する年齢の杉も何本か認められる。

文久年間（一八六一）の碑文には「御社統地（中略）杉並木植付永令御修復為手当地所苗木共寄附」云々とあり、住民が、年久しく植林に留意して、神域を荘厳ならしめてきた努力がうかがわれる。